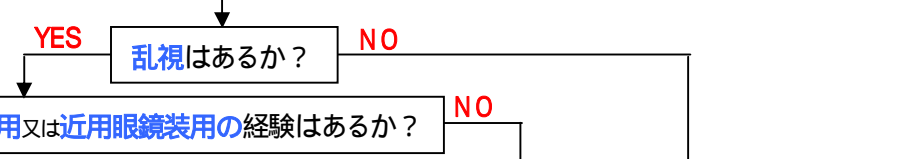
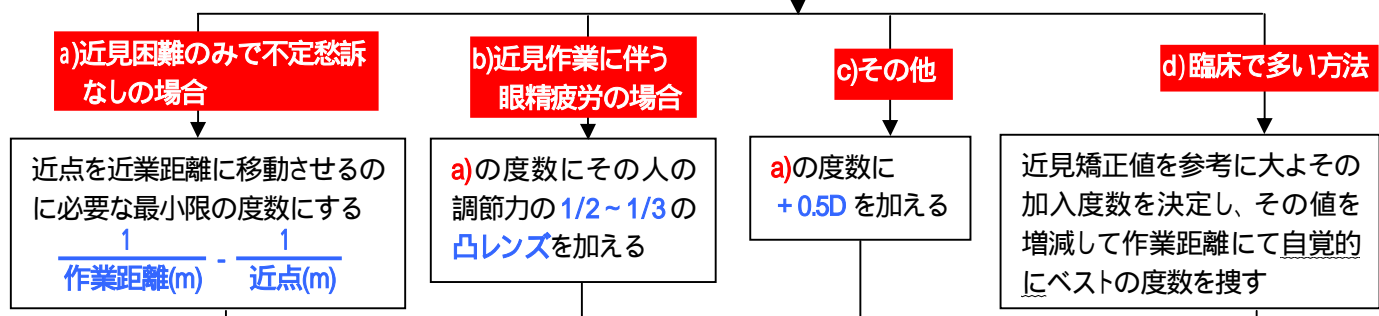


近用眼鏡度数決定方法例

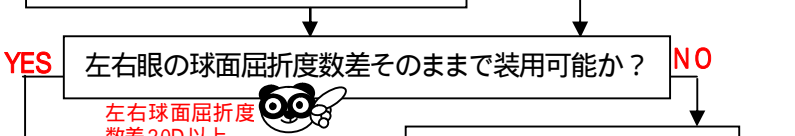
準備物 検眼棒・検眼レンズ・遠近視力表

項目 11. 屈折検査-自覚的屈折検査-近見屈折矯正検査を参考に近見矯正を元に付加レンズ度数の大まかな選択をする

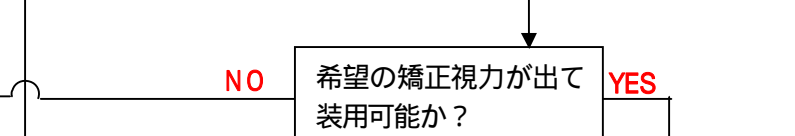


乱視はあるか?
 YES: 遠用又は近用眼鏡装用の経験はあるか?
 YES: 近見屈折矯正検査を元に乱視がある場合は直乱視 控えめに矯正(0.75D 位下げる) 倒乱視 多めに矯正(0.25D 位下げる) することを念頭に等価球面調整をする
 NO: 表1を参考に乱視の強い方を基に左右の C 面を下げ原則として、左右差 C - 0.75D 以上の差をつけないようにする (初回は C-1.0 ~ -2.0D が限度)

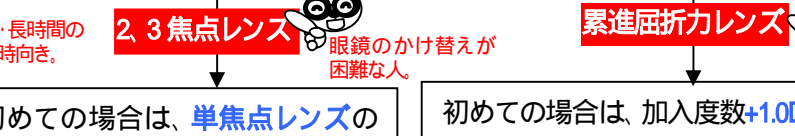
成人の遠用眼鏡度数決定方法例を参考に乱視の度数や軸を調整する



YES: 左右球面屈折度数差 2.0D 以上が大体の目安。
 NO: 優位眼を基準に非優位眼との(等価)球面度数差を縮める



YES: 希望の矯正視力が出て装用可能か?
 NO: 可能であるならモノビジョン法を行う



単焦点レンズ: 初診者・長時間の近方作業する時向き。
 2,3焦点レンズ: 眼鏡のかけ替えが困難な人。
 累進屈折力レンズ: 慣れることに時間がかかるよ!

単焦点レンズ: 希望距離を確認し、再度度数の増減をする
 2,3焦点レンズ: 初めての場合は、単焦点レンズの処方より加入度を控えめにする (初心者加入度数限度 +2.0 ~ +3.0D) (通常 4.0D まで可能)
 累進屈折力レンズ: 初めての場合は、加入度数+1.0D 以内にする (初心者加入度数限度 2.5D) (通常 3.5D まで可能) 乱視度、軸は遠用と同じにする 左右の加入度が違ってても良いが使いづらい 遠用度数が - の場合、近用は強めに処方する

付加度数の調整をし、装用練習をする
 なるべく希望距離で近業作業をしてもらうこと。不安なら相当長く装用練習又は再度来院してもらうこと。多焦点は視線の上下の使用法の説明をしっかりとすること。(遠くは顎をひいて上目使いで、近くは顔を真っ直ぐ視線を下げる) 多焦点の PD は遠用のみで OK

表1 度数調整の目安

完全矯正	減らす度数
C-0.75	C-0.25 ~ 0.50
C-1.00 ~ 1.50	C-0.50
C-1.75 ~ 2.00	C-0.75
C-2.00 以上	完全矯正の半分

参考として、不同視でないなら通常、優位眼を遠方に、非優位眼を近方にする。変法は優位眼を遠近両用に非優位眼を単焦点レンズにする。

ピントの合う距離が希望距離より近い距離に来るなら加入度を下げる。

- チェック項目**
- 一番明視できる位置と度数は一致しているか?
 - 希望距離は明視できる範囲のどの辺りにあるか? (患者に見たい物を近づけたり遠ざけたりさせて、明視できる範囲の確認をし、次に一番明視できる位置に持って行って確認する)

臨床での近用眼鏡処方方法例

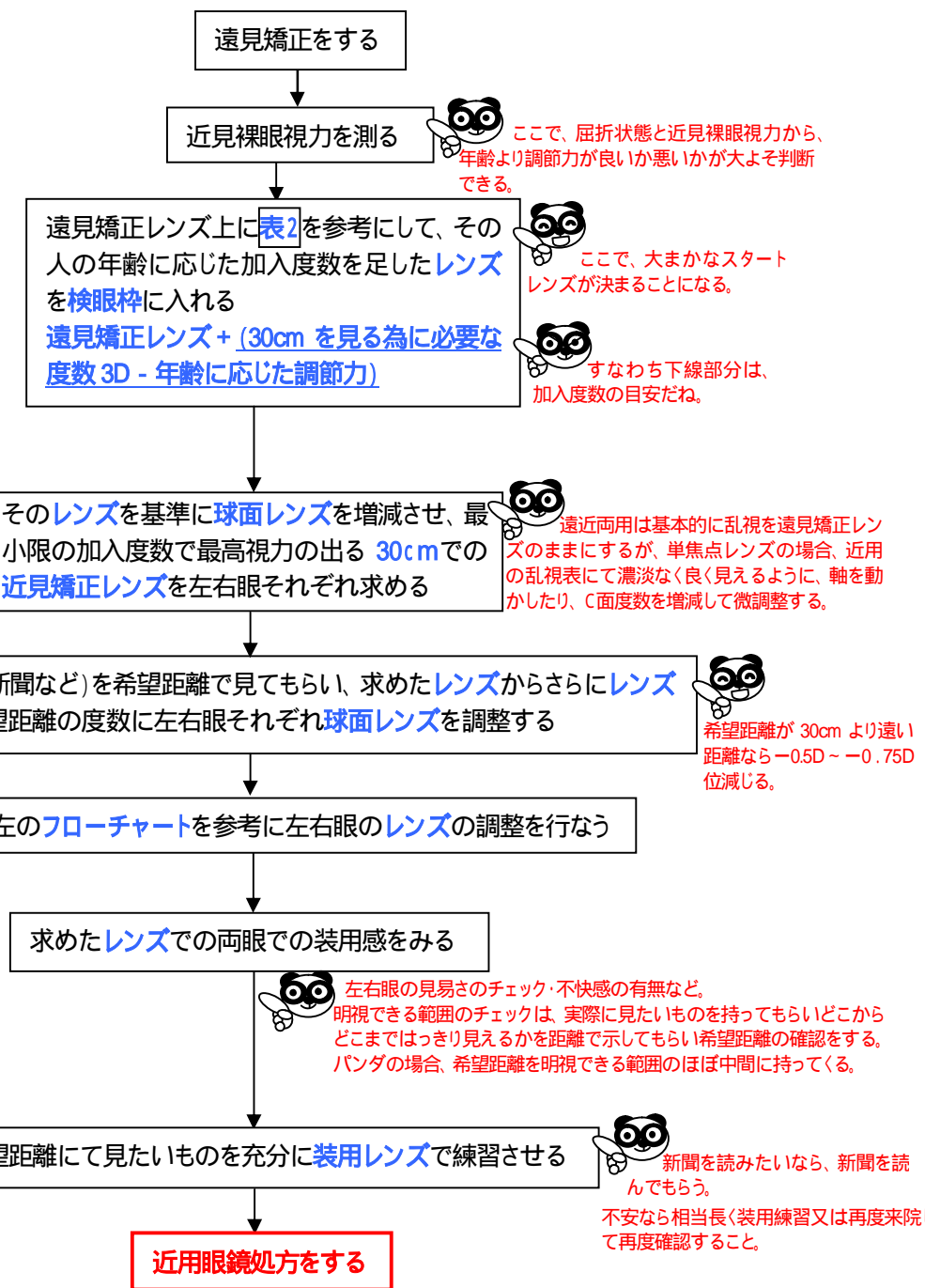


表2 正視の場合の近見矯正(30cm)に必要な加入度数の目安(視能矯正学 P105)

年齢	調節力	加入度数
35	5.5	
40	4.5	
45	3.5	
50	2.5	
55	1.5	
60	1.0	
65	0.5	
70	0.25	
75	0	

自分で計算してね! 臨床では加入度は調節方向に少なめから徐々に付加していくほうが好ましい。

左のフローチャートを参考に左右眼のレンズの調整を行なう

そのレンズを基準に球面レンズを増減させ、最小限の加入度数で最高視力が出る 30cm での近見矯正レンズを左右眼それぞれ求める

見たい物(例えば新聞など)を希望距離で見てもらい、求めたレンズからさらにレンズを増減させて、希望距離の度数に左右眼それぞれ球面レンズを調整する

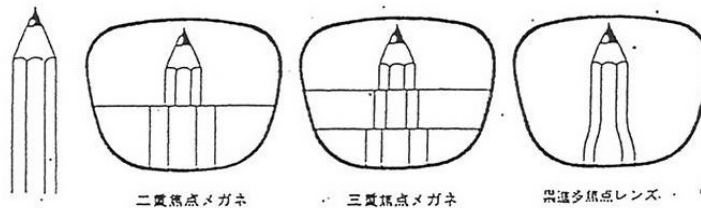
求めたレンズでの両眼での装用感を見る
 左右眼の見易さのチェック・不快感の有無など。明視できる範囲のチェックは、実際に見たいものを持ってもらいどこまではっきり見えるかを距離で示してもらい希望距離の確認をする。パンダの場合、希望距離を明視できる範囲のほぼ中間に持つてくる。

希望距離にて見たいものを充分に装用レンズで練習させる
 新聞を読みたいなら、新聞を読んでもらう。不安なら相当長く装用練習又は再度来院して再度確認すること。

	長 所	短 所
単 焦 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺部での像のユガミ、二重像がない ・ 明視視野が広い ・ 慣れやすい ・ 長時間の近業作業が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間、遠方が見えない ・ 人によっては、複数のメガネを携帯しなければならない
二 重 焦 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較的長時間、近業作業が可能 ・ 遠方視、近方視が意識して出来る ・ 使用目的によって小玉のサイズ形が選べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠用部と近用部の境界がわずらわしい ・ 足元がぼけて見える ・ 中間距離が見にくい ・ イメージジャンプがある ・ 外見上、心理的抵抗が強い
累 進 屈 折 力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠、中、近、切れ目なくピント合わせが出来る ・ イメージジャンプがない ・ 境目がないのでオシャレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺部で像がユガム ・ 近用部の明視視野が狭い ・ 慣れるのに時間がかかる ・ 高価 ・ 高価

上下の眼球運動が多い仕事に向く

メガネを通して鉛筆を見ると図のようになる。



二重焦点メガネ

三重焦点メガネ

累進多焦点レンズ